

関西4都市宿泊施設業界調査

-京都市、大阪市、神戸市および奈良市における宿泊施設の需給について-

<要旨>

1. 訪日外国人旅行者の増加により、関西地域では大阪市や京都市を中心に宿泊施設が不足しているという声があがっている。そこで、本レポートでは、京都市、大阪市、神戸市および奈良市を取り上げ、各都市の宿泊施設の需給の現状や今後の見込みについて分析したい。2015年の延べ宿泊者数はいずれの都市も2011年から増加しており、客室稼働率は上昇傾向にある。各都市の延べ宿泊者数が各府県の延べ宿泊者数に占める割合は低下しているが、これは、宿泊施設の需給が逼迫している結果、都市部に宿泊したくても宿泊できない一部旅行客が、都市部から周辺地域に流れているためではないかと推察される。
2. 4都市の宿泊施設の現状を客室数と客室料金で分析した。京都市は、超高額の宿泊施設がみられるなど幅広い価格帯の宿泊施設が存在し、ホテルよりも旅館が中心である。大阪市は、ホテルが中心であり、様々なタイプの宿泊施設がみられる。また、宿泊施設の数が多いが、比較的低価格で客室数の少ないビジネスホテルが大宗を占めている。神戸市および奈良市は、宿泊施設の数多くなく価格帯の幅も小さい。神戸市はホテルが中心であるが、奈良市は旅館が中心である。このように、都市によってそれぞれ特徴がみられる。
3. 高所得者層(年収15,000ドル以上と仮定)の増加に伴いアジア各国の訪日旅行者が増加すると仮定し、2030年の延べ宿泊者数を試算した。その結果、延べ宿泊者数について、日本人は減少するものの、外国人が大幅に増加し、特に大阪市では2030年には外国人が日本人を上回る水準となった。なお、この試算結果における訪日外国人旅行者数は全国で約5,000万人の規模に相当する。今後、人口増加、経済発展が期待されるアジア各国からの旅行者の増加を見込むだけでも、相応の拡大余地があるといえる。
4. 延べ宿泊者数の試算に基づき、2015年の宿泊施設の需給を推定すると、大阪市では客室数の絶対数が不足しており、部屋タイプ別では、特にツイン以上の客室数が不足しているという結果になった。大阪市では訪日外国人旅行者増加の影響により、宿泊施設全体の需給が逼迫している状況がうかがえる他、例えばツイン以上に宿泊したい人が満室のためシングル・ダブルに宿泊しているなど、宿泊施設の需給にミスマッチが生じているのではないかと推察される。
5. 2015年と同様に、延べ宿泊者数の試算に基づき、2030年の宿泊施設の需給予測を行った。現状の客室数を前提にすると、大阪市では約20,000室、京都市では約5,000室もの客室数の不足が見込まれる結果となり、部屋タイプ別では、大阪市では約20,000室のうちツイン以上の客室数が約14,000室不足するという結果になった。現在、多数の宿泊施設の建設が計画されている。本レポートの結果は様々な前提を置いた上でのあくまで一つの試算であるが、各事業者においては、今後の宿泊需要の変化も踏まえながら、求められる部屋タイプや価格帯を十分考慮した上で、宿泊施設への投資を検討していくことが重要である。

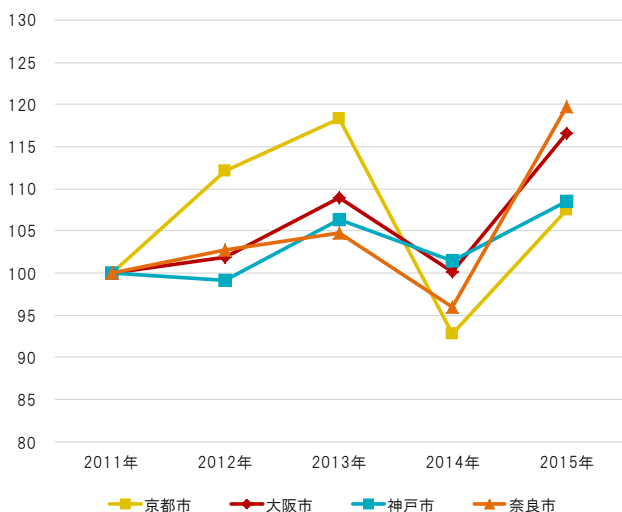
(お問い合わせ先) 株式会社日本政策投資銀行 関西支店 企画調査課 森下正弥

TEL : 06-4706-6455、E-mail : ksinfo@dbj.jp

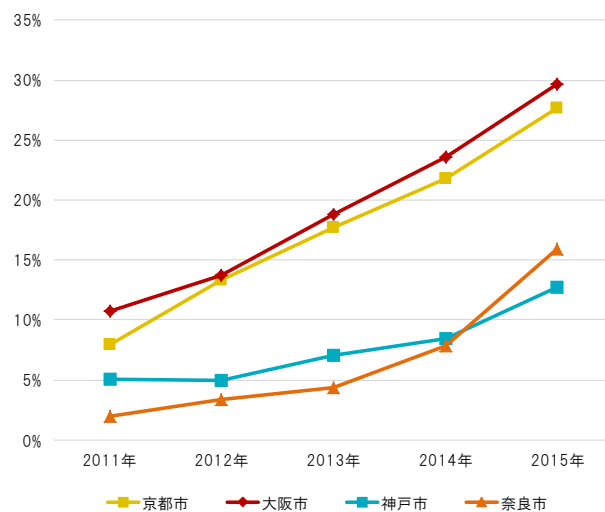
1. 延べ宿泊者数の現状

- ・訪日外国人旅行者の増加により、関西地域では大阪市や京都市を中心に宿泊施設が不足しているという声があがっている。そこで、本レポートでは、京都市、大阪市、神戸市および奈良市を取り上げ、各都市の宿泊施設の需給の現状や今後の見込みについて分析したい。
- ・まず、4都市の延べ宿泊者数をみてみると、その伸びにはばらつきがみられるが、いずれの都市も2015年は2011年から増加している。そのうち外国人の割合は4都市全てで上昇傾向にあり、延べ宿泊者数の増加は、訪日外国人旅行者増加によるものとうかがえる(図表1-1、1-2)。
- ・延べ宿泊者数の増加により、客室稼働率も上昇傾向にあり、2015年では大阪市88%、京都市85%の水準に達している(図表1-3)。
- ・一方、各都市の延べ宿泊者数が各府県の延べ宿泊者数に占める割合は低下しているが、これは、宿泊施設の需給が逼迫している結果、都市部に宿泊したくても宿泊できない一部旅行客が、都市部から周辺地域に流れているためではないかと推察される(図表1-4)。

(図表1-1)延べ宿泊者の推移(2011年=100)



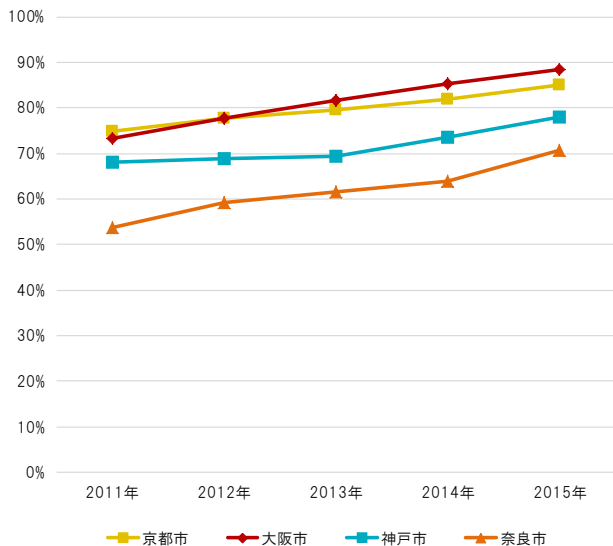
(図表1-2)延べ宿泊者数に占める外国人の割合



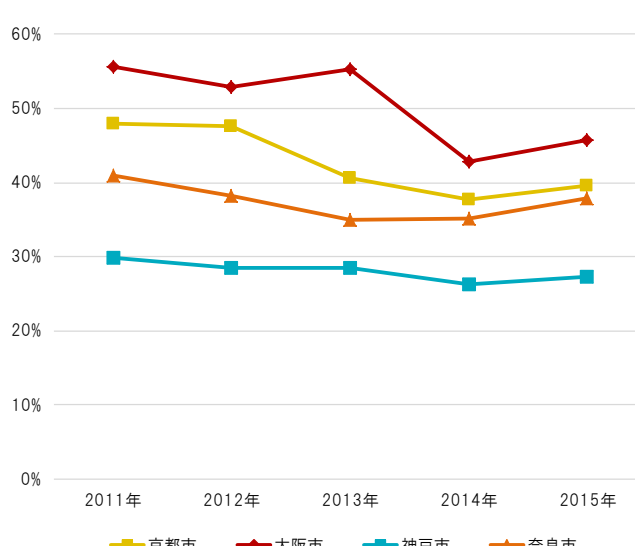
(出所)観光庁『宿泊旅行統計調査』参考第6表より日本政策投資銀行作成

(出所)観光庁『宿泊旅行統計調査』参考第6表、参考第8表より日本政策投資銀行作成

(図表1-3)客室稼働率の推移



(図表1-4)各都市の延べ宿泊者数が各府県の延べ宿泊者数に占める割合



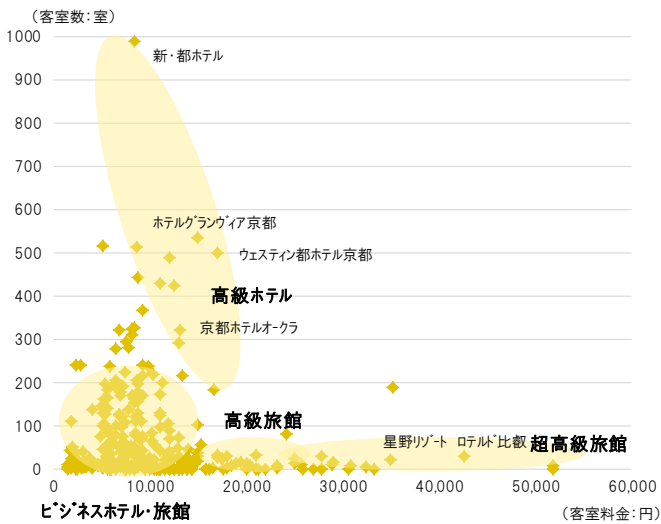
(出所)観光庁『宿泊旅行統計調査』参考第12表より日本政策投資銀行作成
(備考)四半期または月稼働率を平均して算出

(出所)観光庁『宿泊旅行統計調査』第4表および参考第6表より日本政策投資銀行作成

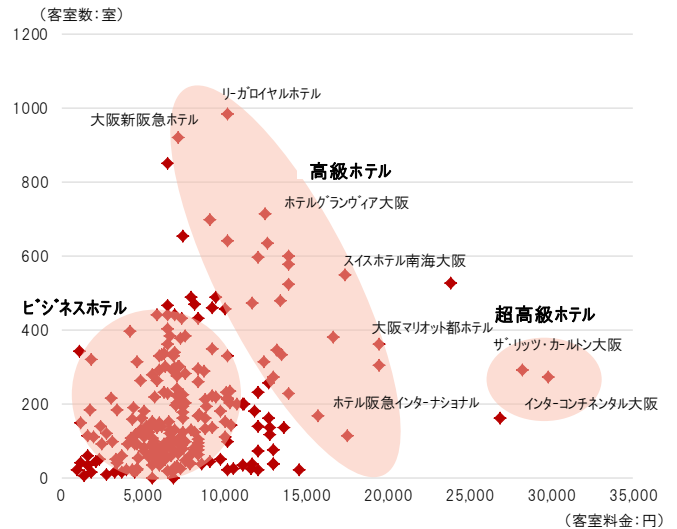
2. 宿泊施設の現状

- ・4都市の宿泊施設の現状を客室数と客室料金で分析した。
- ・京都市は、超高額の宿泊施設がみられるなど幅広い価格帯の宿泊施設が存在し、ホテルよりも旅館が中心である(図表2-1)。
- ・大阪市は、ホテルが中心であり、超高額のホテルから一般のビジネスホテル、ゲストハウス等、様々なタイプの宿泊施設がみられる。また、宿泊施設の数が多いが、比較的低価格で客室数の少ないビジネスホテルが大宗を占めている(図表2-2)。
- ・神戸市および奈良市は、京都市および大阪市と比較すると、宿泊施設の数多くなく価格帯の幅も小さい。神戸市はホテルが中心であるが、奈良市は旅館が中心である(図表2-3、2-4)。
- ・このように、都市によってそれぞれ特徴がみられる。

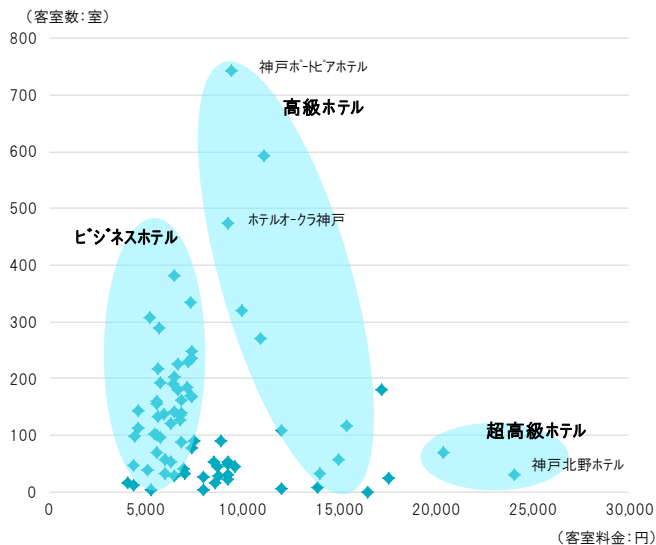
(図表2-1)京都市の宿泊施設



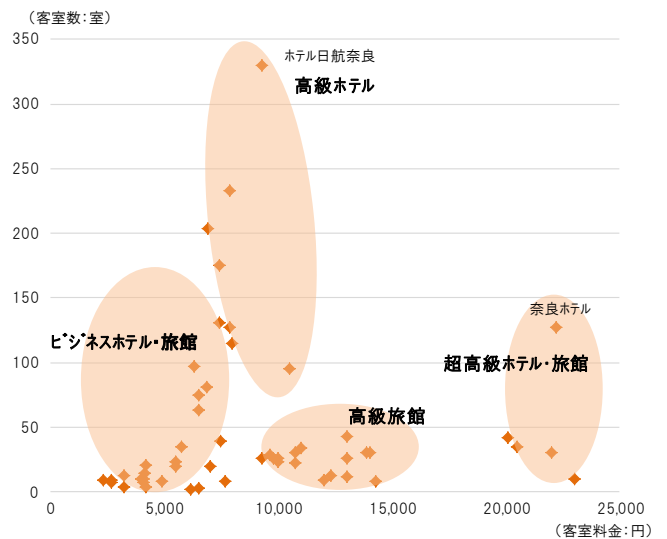
(図表2-2)大阪市の宿泊施設



(図表2-3)神戸市の宿泊施設



(図表2-4)奈良市の宿泊施設



(出所)2016年5月下旬時点のオンライン旅行サイト等より日本政策投資銀行作成
(備考)客室料金は最安値ベース

3. 延べ宿泊者数の現状と予測【試算】

- ・こうした現状を踏まえ、まず3頁で2015年と2030年の延べ宿泊者数を試算した上、4、5頁で部屋タイプ別の宿泊施設の需給を分析した。
- ・2015年については、大阪商工会議所の『“大阪インバウンド”促進に向けた研究会 提言書』のデータを参考に、4都市それぞれについて、厚生労働省『衛生行政報告例』のホテル・旅館客室数のうち85%が実際に利用可能な客室数と仮定し、観光庁『宿泊旅行統計調査』の客室稼働率等に基づき、延べ宿泊者数を試算した。外国人についてはアジア人、欧米人およびその他、日本人についてはビジネス客および観光客と内訳を推定した(図表3-1)。
- ・2030年については、高所得者層(年収15,000ドル以上と仮定)の増加に伴いアジア各国の訪日旅行者が増加すると仮定し試算した。欧米人およびその他は横ばいとし、日本人は人口伸び率、GDP伸び率を勘案した。その結果、延べ宿泊者数について、日本人は減少するものの、外国人が大幅に増加し、特に大阪市では2030年には外国人が日本人を上回る水準となった(図表3-2)。
- ・なお、図表3-2の試算結果における訪日外国人旅行者数は全国で約5,000万人の規模に相当する。今後、人口増加、経済発展が期待されるアジア各国からの旅行者の増加を見込むだけでも、相応の拡大余地があるといえる。

(図表3-1)延べ宿泊者数推定(2015年)

(単位:千人泊)

	延べ宿泊者数							
		外国人				日本人		
		アジア	欧米	その他	ビジネス	観光		
京都市	13,058	3,615	1,879	1,165	571	9,443	1,672	7,770
大阪市	24,120	7,151	5,879	607	665	16,969	6,989	9,980
神戸市	6,471	824	676	72	75	5,647	1,392	4,256
奈良市	1,741	277	211	37	29	1,464	305	1,159

- (備考)①延べ宿泊者数=利用可能客室数×客室稼働率(観光庁『宿泊旅行統計調査』参考第12表)×1部屋平均宿泊人数×365日
 利用可能客室数=登録客室数(厚生労働省『衛生行政報告例(生活衛生)』第8表)×登録客室数のうち利用可能客室数の割合(85%)
 登録客室数のうち利用可能客室数の割合=大阪市訪日戦力客室数(大阪商工会議所『“大阪インバウンド”促進に向けた研究会 提言書』)÷大阪市登録客室数
 1部屋平均宿泊人数=延べ宿泊者数(観光庁『宿泊旅行統計調査』参考第6表)÷利用客室数(観光庁『宿泊旅行統計調査』参考第11表)
 ②外国人、日本人=延べ宿泊者数×外国人、日本人の割合(観光庁『宿泊旅行統計調査』参考第6表、参考第8表)
 ③アジア、欧米、その他=外国人総数×各府県・国籍別割合(観光庁『宿泊旅行統計調査』参考第1表)
 ④日本人観光客=日本人総数×各府県・旅行目的観光・レクリエーションの割合(観光庁『旅行・観光消費動向調査』第22表)
 ⑤日本人ビジネス客=日本人総数-日本人観光客

(図表3-2)延べ宿泊者数予測(2030年。アジア各国の高所得者層の増加を勘案)

(単位:千人泊)

	延べ宿泊者数							
		外国人				日本人		
		アジア	欧米	その他	ビジネス	観光		
京都市	16,163	7,422	5,686	1,165	571	8,741	1,583	7,158
大阪市	33,947	18,138	16,866	607	665	15,808	6,615	9,193
神戸市	7,393	2,155	2,008	72	75	5,237	1,317	3,920
奈良市	2,086	730	664	37	29	1,357	289	1,068

- (備考)①アジア人合計値=アジア各国の延べ宿泊者数の合算値
 アジア各国の延べ宿泊者数=2015年延べ宿泊者数×2030年年収15,000ドル以上の世帯数÷2015年年収15,000ドル以上の世帯数(各国毎に算出)
 2030年年収15,000ドル以上の世帯数=2030年人口(国連)×2030年年収15,000ドル以上の世帯数比率
 2015年年収15,000ドル以上の世帯数=2015年人口(国連)×2015年年収15,000ドル以上の世帯数比率
 2030年年収15,000ドル以上の世帯数比率=2015年年収15,000ドル以上の世帯数比率×2030年一人あたりGDP(IMF)÷2015年一人あたりGDP(IMF)
 2015年年収15,000ドル以上の世帯数比率=2014年年収15,000ドル以上の世帯数比率×2015年一人あたりGDP(IMF)÷2014年一人あたりGDP(IMF)
 2014年年収15,000ドル以上の世帯数比率=2014年年収15,000ドル以上の世帯数(『World Consumer Lifestyles Databook 2014』。2013年と同水準と仮定)
 ÷2014年人口(国連)
 ②欧米人、その他は2015年横ばい
 ③日本人観光客=2015年日本人観光客×2030年人口推定値÷2015年人口推定値(国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口(平成24年1月推計)』表1-9)
 ④日本人ビジネス客=2015年日本人ビジネス客×生産年齢人口伸び率(国立社会保障・人口問題研究所『日本の将来推計人口(平成24年1月推計)』表1-9。5年毎の15才～64才の人口推定値から毎年の伸び率を試算)×GDP伸び率(IMF)。予測値は2021年までのため、2022年以降は2016年～2021年の伸び率平均値と仮定)

(図表3-3)参考:延べ宿泊者数予測(2030年。訪日外国人旅行者が政府目標6,000万人の場合)

(単位:千人泊)

	延べ宿泊者数							
		外国人				日本人		
		アジア	欧米	その他	ビジネス	観光		
京都市	19,730	10,990				8,741	1,583	7,158
大阪市	37,548	21,739				15,808	6,615	9,193
神戸市	7,741	2,503				5,237	1,317	3,920
奈良市	2,198	841				1,357	289	1,068

- (備考)①外国人総数=2015年外国人総数×2030年訪日外国人旅行者数600万人(『明日の日本を支える観光ビジョン』)÷2015年訪日外国人旅行者数200万人(日本政府観光局)
 ②日本人観光客、日本人ビジネス客はケース1と同様に試算

4. 宿泊施設の需給状況（2015年）【試算】

- ・3頁の延べ宿泊者数の試算に基づき2015年の宿泊施設の需給を推定した。
- ・まず、外国人旅行者および日本人旅行者それぞれについて、ビジネス客および観光客の一部が一人旅行者としてシングルまたはダブルに宿泊、残りの観光客が複数旅行者としてツイン以上に宿泊と仮定し、客室稼働率の上限を目安として85%とおき、需要客室数を試算した(図表4-1、4-2、4-3)。
- ・次に、現状の供給客室数について、3頁の利用可能客室数を前提に、オンライン旅行サイト等のデータを用いて部屋タイプ別に試算した(図表4-4)。
- ・以上を踏まえ、2015年の宿泊施設の需給を分析すると、大阪市では客室数の絶対数が不足しており、部屋タイプ別では、特にツイン以上の客室数が不足しているという結果になった(図表4-5)。大阪市では訪日外国人旅行者増加の影響により、宿泊施設全体の需給が逼迫している状況がうかがえる他、ツイン以上に宿泊したい人が満室のためシングル・ダブルに宿泊しているなど、宿泊施設の需給にミスマッチが生じているのではないかと推察される。

(図表4-1)延べ宿泊者数推定(2015年)

(単位:千人泊)

	延べ宿泊者数						
		外国人		日本人			
		一人	複数	一人	複数		
京都市	13,058	3,615	746	2,869	9,443	2,158	7,285
大阪市	24,120	7,151	1,880	5,271	16,969	7,612	9,357
神戸市	6,471	824	228	595	5,647	1,657	3,990
奈良市	1,741	277	52	225	1,464	378	1,087

(備考)図表3-1より作成

- ①外国人複数=外国人総数×各府県・旅行目的観光・レジャーの割合(観光庁『訪日外国人消費動向調査』第3表)×(1-全国・旅行目的観光・レジャーのうちの一人の割合(観光庁『訪日外国人消費動向調査』参考表4))
- ②外国人一人=外国人総数-外国人複数
- ③日本人一人=日本人ビジネス客+日本人観光客×全国・旅行目的観光・レクリエーションのうちの一人の割合(観光庁『旅行・観光消費動向調査』第15表)
- ④日本人複数=日本人総数-日本人一人

(図表4-2)需要客室数推定(2015年。外国人・日本人別)

(単位:室)

	需要客室数						
		外国人		日本人			
		シングル・ダブル	ツイン以上	シングル・ダブル	ツイン以上		
京都市	22,251	6,047	2,403	3,643	16,204	6,954	9,250
大阪市	51,512	13,597	6,060	7,538	37,915	24,535	13,380
神戸市	12,406	1,557	736	822	10,849	5,342	5,507
奈良市	3,180	475	167	308	2,706	1,217	1,489

(備考)①需要客室数=下記にてそれぞれ算出した客室数÷上限客室稼働率85%

- ②総客室数=利用可能客室数(図表3-1)×客室稼働率(観光庁『宿泊旅行統計調査』参考第12表)
- ③外国人シングル・ダブル=外国人一人÷365日、日本人シングル・ダブル=日本人一人÷365日
- ④外国人ツイン以上=(総客室数-外国人シングル・ダブル-日本人シングル・ダブル)×外国人複数÷(外国人複数+日本人複数)
- ⑤日本人ツイン以上=総客室数-外国人シングル・ダブル-日本人シングル・ダブル-外国人ツイン以上

(図表4-3)需要客室数推定(2015年)

(単位:室)

	需要客室数	
	シングル・ダブル	ツイン以上
京都市	22,251	9,358
大阪市	51,512	30,594
神戸市	12,406	6,077
奈良市	3,180	1,383

(備考)図表4-2より作成

(図表4-4)供給客室数推定(2015年)

(単位:室)

	供給客室数	
	シングル・ダブル	ツイン以上
京都市	22,266	9,779
大阪市	49,503	31,826
神戸市	13,530	7,463
奈良市	3,829	1,641

(備考)利用可能客室数(図表3-1)×部屋タイプ別の客室数の割合(オンライン旅行サイト等)

(図表4-5)客室数需給ギャップ推定(2015年)

(単位:室)

	客室数需給ギャップ	
	シングル・ダブル	ツイン以上
京都市	15	△ 406
大阪市	△ 2,009	△ 3,241
神戸市	1,124	△ 262
奈良市	649	391

(備考)プラスが余剰、マイナスが不足
図表4-3と図表4-4より作成

5. 宿泊施設の需給予測（2030年）と今後の施策【試算】

- ・4頁と同様に、3頁の延べ宿泊者数の試算に基づき、2030年の宿泊施設の需給予測を行った。現状の客室数を前提にすると、大阪市では約20,000室、京都市では約5,000室もの客室数の不足が見込まれる結果となり、部屋タイプ別では、大阪市では約20,000室のうちツイン以上の客室数が約14,000室不足するという結果になった(図表5-1、5-2、5-3、5-4)。
- ・旅行会社等へのヒアリングでは、大阪について梅田と難波の今後の一層の需要拡大や、ビジネスとラグジュアリーの間帯の価格帯のホテルが求められているのではという意見が聞かれた。
- ・京都市、大阪市および神戸市では、シングル・ダブルよりもツイン以上の客室数の不足が顕著となる結果になったが、今後は、低価格帯のシングル・ダブル中心のビジネスホテルよりも、ある程度の価格帯で、より広い部屋タイプの宿泊施設の整備が求められるのではないかと推察される。
- ・現在、多数の宿泊施設の建設が計画されている。本レポートの結果は様々な前提を置いた上でのあくまで一つの試算であるが、各事業者においては、今後の宿泊需要の変化も踏まえながら、求められる部屋タイプや価格帯を十分考慮した上で、宿泊施設への投資を検討していくことが重要である。

(図表5-1)延べ宿泊者数予測(2030年)

(単位:千人泊)

	延べ宿泊者数						
		外国人		日本人			
		一人	複数	一人	複数		
京都市	16,163	7,422	1,531	5,891	8,741	2,030	6,711
大阪市	33,947	18,138	4,768	13,370	15,808	7,189	8,619
神戸市	7,393	2,155	597	1,558	5,237	1,562	3,675
奈良市	2,086	730	136	593	1,357	355	1,001

(備考)図表3-2より、図表4-1と同様の方法により作成

(図表5-2)需要客室数予測(2030年。外国人・日本人別)

(単位:室)

	需要客室数						
		外国人		日本人			
		シングル・ダブル	ツイン以上	シングル・ダブル	ツイン以上		
京都市	27,478	12,415	4,935	7,480	15,063	6,542	8,521
大阪市	69,985	34,488	15,369	19,119	35,496	23,171	12,325
神戸市	14,184	4,076	1,925	2,151	10,108	5,034	5,073
奈良市	3,769	1,252	439	813	2,517	1,146	1,371

(備考)①需要客室数=下記にてそれぞれ算出した客室数÷上限客室稼働率85%

②外国人シングル・ダブル=外国人一人÷365日、日本人シングル・ダブル=日本人一人÷365日

③外国人ツイン以上=外国人複数÷1部屋平均宿泊人数(複数)÷365日、日本人ツイン以上=日本人複数÷1部屋平均宿泊人数(複数)÷365日

1部屋平均宿泊人数(複数)=(外国人複数+日本人複数)÷ツイン以上客室数÷365日(4頁の2015年試算より算出)

(図表5-3)需要客室数予測(2030年)

(単位:室)

	需要客室数		
	シングル・ダブル	ツイン以上	
京都市	27,478	11,477	16,001
大阪市	69,985	38,541	31,444
神戸市	14,184	6,959	7,224
奈良市	3,769	1,585	2,184

(備考)図表5-2より作成

(図表5-5)宿泊施設建設計画

(単位:室)

	客室数	
	シングル・ダブル	ツイン以上
京都市	3,815	
大阪市	6,795	
神戸市	606	
奈良市	288	

(出所)各種HP、新聞記事等より日本政策投資銀行作成

(備考)本レポート全体について、四捨五入の関係により、数字の合算値が合わない場合がある。

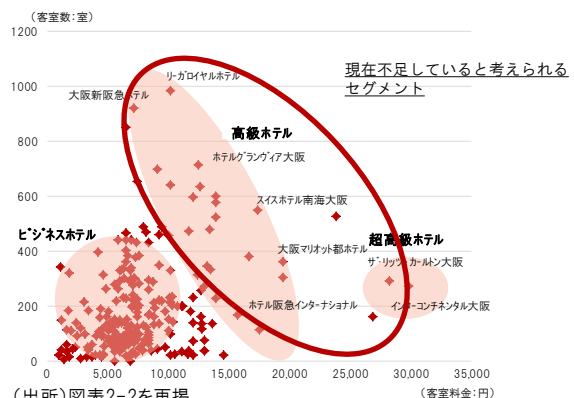
(図表5-4)客室数需給ギャップ予測(2030年)

(単位:室)

	客室数需給ギャップ		
	シングル・ダブル	ツイン以上	
京都市	△ 5,212	△ 1,698	△ 3,514
大阪市	△ 20,482	△ 6,715	△ 13,767
神戸市	△ 654	504	△ 1,157
奈良市	60	56	4

(備考)図表5-3と図表4-4より作成

(図表5-6)大阪市の宿泊施設



(出所)図表2-2を再掲

(参考1) 宿泊施設建設計画①

(図表参考1-1)京都市の宿泊施設建設計画

開発企業	ホテル名・プロジェクト名	開業時期	客室数(室)
ユニバーサル	京都東九条ユニバーサルホテル	2016年7月	424
藤田観光	ホテルグレイスリー京都三条	2016年7月	97
バリュー・プロダクツ・ジャパン	京都河原町プロジェクト	2016年8月	28
小田急電鉄	ホテルカンラ京都(代々木ゼミ旧京都校)	2016年11月	68
フォーシーズンズホテル	フォーシーズンズホテル京都	2016年秋	179
ダイワロイヤル	ダイワロイネットホテル京都七条	2016年	205
高田家旅館	ホテル空京都WEST	2017年1月	40
アパホテル	アパホテル京都駅北	2017年4月	105
相模鉄道	相鉄フレッサイン京都四条烏丸	2017年春	146
相模鉄道	相鉄フレッサイン京都駅八条口	2017年春	138
フレンドステージ	東山区祇園地区	2017年7月	105
リゾートソリューション	ホテルリソル京都・三条河原町	2017年9月	144
藤田観光	ホテルグレイスリー京都新京極	2017年夏	128
サンケイビル	京都ホテル開発プロジェクト	2017年12月	153
NTT西日本アセットプランニング、三井不動産	京都祇園小松町ホテル	2017年	163
西日本鉄道	ソラリア西鉄ホテル京都	2017年	200
三菱地所	京都四条烏丸ホテル(ロイヤルパークホテル)	2018年2月	170
京阪電気鉄道	BIO-Style 京都・四条河原町プロジェクト	2018年	200
三井不動産	京都国際ホテル跡地	2018年	300
ユニホー	烏丸五条ホテル	2019年2月	301
竹中工務店	老舗料亭「京大和」敷地	2019年	70
NTT都市開発	新風館	2019年	190
エム・ジークリエイト	北烏丸宿泊施設	-	87
ユキ・コーポレーション	京都壬生坊城町プロジェクト	-	134
ホテルエムズ	京都四条大宮ホテルプロジェクト	-	-
ホテルエムズ	京都四条烏丸ホテルプロジェクト	-	-
NTT都市開発	元清水小跡地		40
		合計	3,815

(出所)各種HP、新聞報道等より日本政策投資銀行作成

(参考1) 宿泊施設建設計画②

(図表参考1-2)大阪市の宿泊施設建設計画

開発企業	ホテル名・プロジェクト名	開業時期	客室数(室)
シテイラスト不動産	四天王寺ビジネスホテル	2016年9月	40
共立メンテナンス	ドーミーインPREMIUMなんば別荘	2016年9月	-
リブマックス	ホテルリブマックス梅田堂山	2016年10月	-
REMIX	ツアーホテル心斎橋EAST	2016年11月	70
ティーケーピー	TKPガーデンシティ大阪梅田隣接地	2016年12月	79
昭和技研	西三国ビジネスホテル	2016年12月	100
-	ザ・ブリッジホテル	2016年12月	209
王宮	心斎橋	2016年秋	-
シテイラスト不動産	日本橋 Crystal Hotel	2016年	54
ライフサービス	北区曾根崎ビジネスホテル	2016年	52
ホテル関西	Tプロジェクト	2016年	150
ダイワソシオ・カンパニー	HOTEL四季鞠公園	2016年	26
エビス興産	エビス興産西心斎橋ホテル	2016年	60
海部建設	浪速区下寺3丁目ホテル	2017年1月	30
日本エスコン	大阪市中央区平野町ホテルプロジェクト	2017年2月	100
山本産業	浪速区・東恵比寿ビジネスホテルProject	2017年2月	122
阪神住建	東心斎橋1丁目ホテル	2017年3月	80
プレサンスコーポレーション	浪速区稲荷1丁目新築工事	2017年3月	72
新梅田研修センター	新梅田研修センターホテル	2017年3月	82
ホテルアンドアソシエイツ	イルクルーズ本町	2017年3月	165
アパホテル	アパホテルなんば駅東	2017年4月	380
サンケイビル	カンデオホテルズ東心斎橋	2017年5月	496
NTT都市開発	ユニバーサルシティ駅前プロジェクト(カンデオホテルズ)	2017年6月	390
三井住友銀行	三井住友銀行会館(大阪)新築工事	2017年6月	-
アパホテル	アパホテル御堂筋本町駅東	2017年6月	160
京阪電気鉄道	ホテル京阪淀屋橋	2017年6月	210
東洋プロパティ	淀屋橋プロジェクト	2017年6月	210
西日本旅客鉄道	ヴィアイン梅田	2017年春	217
ベッセルホテル	ベッセルイン大阪心斎橋	2017年春	133
朝日新聞社、竹中工務店	中之島フェスティバルタワー・ウエスト(コンラッド大阪)	2017年夏	164
西日本旅客鉄道	ヴィアイン天王寺	2017年夏	172
ユニゾホテル	ユニゾホテル新大阪	2017年11月	190
ホテルアンドアソシエイツ	イルクルーズ梅田EAST	2017年11月	200
王宮	ミナミ	2017年12月	360
三菱地所	大阪南船場ホテル計画	2017年12月	300
アパホテル	アパホテル新大阪駅南	2017年	60
大和企業	小松原町ビジネスホテル	2017年	200
グランド	天満2丁目ホテル	2017年	155
グランド	心斎橋グランドホテル増築工事	2017年	159
伸光建設	浪速区大国2丁目ビジネスホテル	2017年	32
H&Mコーポレーション	北区菟我野町ビジネスホテル	2017年	49
ユニゾホテル	ホテルユニゾ大阪梅田	2018年春	-
アパホテル	アパホテル御堂筋本町駅タワー	2019年6月	917
ベルコ	ホテルロイヤルクラシック大阪(新歌舞伎座跡地)	2019年10月	150
オリックス	ホテルユニバーサルポート隣接地	-	-
	合計		6,795

(図表参考1-3)神戸市の宿泊施設建設計画

開発企業	ホテル名・プロジェクト名	開業時期	客室数(室)
ハウジングタイホー	カンデオホテルズ(三宮3丁目ホテル計画)	2017年12月	160
神戸ダイタク	ホテルサンルート神戸	2017年	174
神戸ルミナスホテル	神戸ルミナスホテル三宮(神戸市庁舎4号館跡地)	2018年	272
	合計		606

(図表参考1-4)奈良市の宿泊施設建設計画

開発企業	ホテル名・プロジェクト名	開業時期	客室数(室)
フクダ不動産	ピアッツァホテルJR奈良駅前	2017年5月	138
森トラスト	JW Marriottホテル奈良	2020年	150
	合計		288

(出所)各種HP、新聞報道等より日本政策投資銀行作成

(参考2) 今後の施策 (MICEについて)

- ・日本の国際会議開催件数は、世界で7位に留まっている。
- ・都市別でみると、最も開催件数が多い東京が世界で22位であり、次いで京都が54位となっている。なお、近時訪日外国人旅行者の増加が著しい大阪だが、MICEへの取り組みは遅れており、開催件数は10件、222位に留まっている。
- ・現在、大阪市では、国際会議の開催が可能なホテルはホテルニューオータニ大阪、リーガロイヤルホテル、ハイアットリージェンシー大阪等と決して多くはない。
- ・例えば、大阪市でも、今後、MICE機能の強化と並行しホテル整備を行うことで、訪日外国人旅行者を中心とした一層の宿泊需要の獲得が期待できるのではないだろうか。

(図表参考2-1) 国別の国際会議開催件数(2014年)

(単位:件)	
国名	件数
アメリカ	831
ドイツ	659
スペイン	578
イギリス	543
フランス	533
イタリア	452
日本	337
中国	332
オランダ	307
ブラジル	291

(出所)観光庁『近年の国際会議の傾向』より日本政策投資銀行作成

(図表参考2-2) 日本の都市別国際会議開催件数(2014年)

(単位:件)			
アジア大洋州・中東地域順位	世界順位	都市	開催件数
6	22	東京	90
13	54	京都	47
26	125	札幌	19
30	134	横浜	18
34	152	奈良	16
34	152	沖縄	16
38	164	福岡	15
38	164	神戸	15
47	208	名古屋	11
49	222	大阪	10

(出所)観光庁『近年の国際会議の傾向』より日本政策投資銀行作成

(図表参考2-3) 大阪市の国際会議の開催が可能なホテル一覧

ホテル名	客室数(室)	客室料金(円)	収容人数(人)	MICE施設
ホテルニューオータニ大阪	525	13,888	3,000	大阪城ホール
リーガロイヤルホテル	984	10,185	1,800	大阪国際会議場
ハイアットリージェンシー大阪	480	13,425	2,496	インテックス大阪・ATCホール
スイスホテル大阪南海	548	17,361	1,400	
ウェスティンホテル大阪	304	19,444	1,200	
シェラトン都ホテル大阪	578	13,888	1,200	
大阪新阪急ホテル	922	7,129	800	
ホテルモントレ大阪	194	8,888	600	
ホテルグランヴィア大阪	716	12,500	530	

(出所)MICE JAPAN HP、オンライン旅行サイト等より日本政策投資銀行作成

(備考)客室料金は最安値ベース



© Development Bank of Japan Inc.2016

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願い致します。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：日本政策投資銀行』と明記して下さい。

(お問い合わせ先)

株式会社日本政策投資銀行 関西支店 企画調査課

〒541-0042

大阪市中央区今橋4-1-1 淀屋橋三井ビルディング13F

Tel:06-4706-6455

E-mail:ksinfo@dbj.jp

HP: <http://www.dbj.jp/co/info/branchnews/kansai/index.html>